



テーマ	平成29年度泉州地域給食研究会合同講演会
目的	災害が起こった場合、給食施設においては自助が原則であり、平常時からの施設内体制整備や食糧備蓄だけでなく、地域と連携体制を構築することが重要である。泉州地域は南海トラフ地震発生時に、甚大な被害が想定されており、災害時は施設が避難者の受け入れや炊出しの拠点となることも想定されるため、より一層の体制整備が求められている。そこで、災害時の栄養・給食のあり方、平時からの備えについて考え、給食施設での危機管理対策を推進することを目的に研修会を開催する。開催にあたっては、先駆的な取組を行っている給食研究会と連携する。
対象・参加者数	・泉州ブロック保健所管内給食研究会会員：92施設107名 ・泉州ブロック保健所管内給食研究会会員外施設・関係機関団体：40施設43名、関係団体・機関18名（合計人数168名）
実施主体	岸和田保健所・和泉保健所・泉佐野保健所管内食研究会 大阪府岸和田保健所、同和泉保健所、同泉佐野保健所
実施時期	平成29年9月5日（火）午後2時～5時
内容・方法	<p>(1) 実践報告 「泉佐野保健所管内給食研究会における危機管理体制の構築を図るための取組」 泉佐野保健所管内給食研究会 楓こころのホスピタル 管理栄養士 植村明子氏</p> <p>(2) 講演 「命を守る防災 ～食べることから考える～」 学術博士・農林水産技術会議委員・相愛大学客員教授・キッズキッチン協会会長・近畿米粉食品普及推進協議会会長 坂本廣子先生</p> <p>(3) 情報提供 「施設での危機管理体制について」 泉佐野保健所 広域栄養チーム 管理栄養士</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
成果・感想	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会の先駆的な取組報告により、改めて施設での危機管理について考えるきっかけとなった。 ・給食施設や地域の関係団体から多数の参加者があり、災害に対する備えについて広く啓発することができた。講師の実体験を踏まえた話により、個人の防災意識が高まったという声も聞かれた。 ・事前のアンケートから、施設での災害対策について状況や課題が把握でき、今後の対策につなげることができた。
担当窓口 (連絡先)	大阪府和泉保健所（電話番号 0725-41-1342） 大阪府岸和田保健所（電話番号 072-422-7502） 大阪府泉佐野保健所（電話番号 072-462-7701）